

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46-2
自己評価作成日	平成24年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護する側・される側ではなく、人としての関わりを大切にしたい。利用者も職員も、常に笑顔で過ごせるようにしていきたい。地域に根付いた施設となるよう、努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が行ってきた行事ごとを大切に支援されており、お彼岸に、お墓参りすることは難しいようだが、「思いを馳せ」ながら、皆でおはぎを手作りされたり、お正月にはお鏡餅を作って、地域の風習等を教えていただきながら近くの札所にも供えられた。
事業所の活動は「一つのことをみんなで作りあげよう」という「職員参加型」で取り組んでおられる。手書きの「シーサイド新聞」は、写真やコメント、イラスト等、いろいろな職員がかかわりながら職員の気持ちを込めて作成されている。又、毎日の館内放送は職員が順番で担当されていて、職員は、ご自分の名前を紹介し、ラジオ体操の音楽を流したり、昼食・夕食のメニューを知らせ、ご自分が発信したいことを放送を通じて伝えるようになっている。月末には、併設施設が持ち回りで「笑い大使」となり、仮装等して各事業所を回り、利用者を笑わせるような取り組みをされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	シーサイド
(ユニット名)	げんき
記入者(管理者)	
氏名	菊川 孔子
評価完了日	24年 2月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念をフロアに掲示し、皆が見えるようにすることで、職員の 意識統一ができ、月1回のミーティング時に、全員で復唱を 行っている。	
			(外部評価) 施設長は、事業所理念をもとに、「人生の先輩である利用者 に寄りそう」ことの大切さや、利用者が「普通のことをふつう に」できるような支援を実践できるよう話しておられる。施設 長は、開設当初から「大島の地域の方達のお役に立ちたい」 という思いを持っておられ、これまで、地域との関係作りへの 取り組みを「一つひとついねいに」積み重ねてこられてい る。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 行事の際には、地域の学生ボランティアへ参加の呼び掛け を行ったり、地方祭の際には、地域の神輿にきていただき、 交流を持っている。また、利用者と一緒に買い物に行った時 や、散歩の時など、近所の方との会話を楽しまれている。	
			(外部評価) 法人全体で地域との関係作りをすすめておられ、地域の方 達だけでは難くなった近くの札所の掃除や、島四国の際 のお接待を継続して行っておられ、地域の方達や参拝者に 喜ばれている。恒例となっている法人主催の夏祭りは、年々 参加者が増え、今では地域の方達から先に手伝いを申し出 てもらえるようになったようだ。	施設長は、事業所の役割として、市や地域包括支援セン ターと相談しながら、今後、大島の地域の方達に、さらに介 護保険や医療保険等の新しい情報や便利な情報を知らせ ていきたいと考えておられる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 毎月、定期的に施設の隣にある札所に、利用者と職員で協 力し、札所の清掃をさせていただいている。また、毎年、島 四国の縁日の時にも利用者と職員で協力し、遠方からの参 拝者へお接待し、島の行事を受け継がせて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>二か月に一回開催し、家族・民生委員、市の担当職員などから、活発な意見を頂き、サービスの向上に努めている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>支所の推進会議のメンバー以外にも、市役所高齢介護課からの訪問もあり、介護課からの視点での意見も頂いている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>職員同士、日々利用者の安全について考えながら、拘束しないケアについて話し合い、確認し合っている。また、ミーティング等で意見を出し合う機会を持ち、職員間で意識の統一に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の中には、居室に閉じこもりがちになるようなこともあるが、職員は、利用者に寄り添い、共感することに心がけ、表情等も観察しながら、時間をかけて居間へ出て来られるように支援をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	施設の研修にて、勉強会を行っている。また、勉強会だけでなく、日々の申し送りやミーティングでも、職員間で話し合い、意識統一できるよう、努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	受付にて、成年後見人制度、福祉サービス利用援助事業等のパンフレットを常備しており、必要に応じ、利用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約時に、本人・家族とよく話し合い、不安なこと・気になること等を聞き取り、重要事項説明書などでも、十分に説明し、ご理解・納得が頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	受付には、意見箱を設置しており、気になった事や意見を頂けるようにしている。また、契約時に重要事項や苦情処理システムを徹底し、意見のある時には解決に向けて話し合いを行っている。面会時にも、職員から積極的に話しかけ、意見の出しやすい雰囲気作りに努めている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングをしたり、日々の会話も積極的に行い、気付いたことを積極的に検討し、実践している。また、申し送りの時にも、気付いたことを話合うようにしている。	
			(外部評価) 事業所の活動は「一つのことをみんなで作りあげよう」という「職員参加型」で取り組んでおられる。手書きの「シーサイド新聞」は、写真やコメント、イラスト等、いろいろな職員がかかわりながら職員の気持ちを込めて作成されている。又、毎日の館内放送は職員が順番で担当されていて、職員は、ご自分の名前を紹介し、ラジオ体操の音楽を流したり、昼食・夕食のメニューを知らせ、ご自分が発信したいことを放送を通じて伝えるようになっている。利用者は放送に合わせてラジオ体操をされたり、職員の放送について感想を話してください。又、毎月のミーティング時には、法人内の全事業所職員が集まり、外部研修の報告をされたり、最後には施設長が選んだ詩を職員が朗読して、職員個々の感性等も磨く機会も作っておられる。施設長は、職員の気持ちの変化等を察知して、声をかけるようにされており、職員個々の「自分だからできること」を引き出し、自発的に活動できるよう動機づけをされている。月末には、併設施設が持ち回りで「笑い大使」となり、仮装等して各事業所を回り、利用者を笑わせるような取り組みをされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員と話し、意見を聴く機会を設けている。外部研修の案内も伝達し、興味のある講義を受講し、他の職員に研修内容を講義している。利用者個々の担当を決め、月行事を分担し、皆に協力を呼び掛けて、実施している。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティング時に、施設内研修を行い、個々の職員のスキルアップに努めている。外部研修の内容は申し送りや、ミーティングの時にも、他の職員には伝達し、現場研修でも、個別に指導し、お互い成長しあえるよう取り組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の事業所間での、合同ミーティングを開催し、困難事例について、話し合いを行っている。夏祭り際には、事業所間同士の職員で協力し、取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時、利用者本人と家族を交え、面接を行い、情報収集し、本人や家族の希望や、不安を伺いながら、どうすればいいか考え、ケアに活かせるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、利用者、家族を交えて話し合い、情報収集し、家族からの意向や不安なことを、職員間で話し合い、共有し、利用者にとってより良い介護ができるように、本人・家族の意見を大切にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族を交えて意向を伺い、適宜、状態に応じたサービスが行えるように、日々、観察を行い、より良いサービスが行えるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護するされる側ではなく、もし自分の家族だったら、もし自分だったらという思いで、関わらせていただくように努めている。昔ながらの行事や、料理を作る時などは、利用者に教えて頂きながら、一緒に行い、共に生活をしている対等な関係を築けるよう努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に園内の新聞を送る際にも、日常生活の状況を報告している。また、随時連絡を取り、本人・家族の意見を尊重し、利用者にとって一番良い介護を行っていきけるよう、検討している。夏祭り、クリスマスなどの行事を、家族と一緒にを行い、家族と利用者スタッフとの関係をより良いものにしよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の希望にとり、外出レク(買い物レク等)や、また、施設近隣の散歩、定期的な札所の掃除などを通じて、顔見知りの人との触れ合いができるように支援している。また、電話をかけたたり、馴染みの美容室へ行く等して、知人との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) 利用者が行ってきた行事ごとを大切に支援されており、お彼岸に、お墓参りすることは難しいようだが、「思いを馳せ」ながら、皆でおはぎを手作りされたり、お正月にはお鏡餅を作っ、地域の風習等を教えていただきながら近くの札所にも供えられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人が孤立しないよう、職員が間に入り、声掛けや、話題を見つけ、話をしやすいように支援している。また、レクリエーションや利用者と共に散歩をする等、楽しく生活できるよう、努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で、医療的管理が必要となり、やむなく退所された場合でも、お見舞いに行くなどして、利用者・家族との交流があり、相談にのらせて頂いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と日々会話をし、本人の意向を伺い、言葉で表現できない本人の想いも、仕草や表情などから気づくよう努力している。また、より良いケアを行えるよう、カンファレンス・ミーティングで話し合い、検討している。 (外部評価) 週に2回、移動パン屋さんが来てくれ、利用者はそれぞれにお好きなパンを選んで買えるよう支援されている。センター方式の様式を用いて利用者の情報を集めたり、アセスメントされている。	認知症がすすんでから入居に至るような利用者や、意思表示が難しいような方も多く、又、ご家族からも情報を得ることが難しいような方もある。日々の中から情報を集めることに努め、利用者のことを知る手がかりにして、利用者主体のケアに取り組む際のさらなる拠り所とされてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時には、本人、家族から面接時情報収集を行っている。また、入所してから、日常生活での会話や家族面会、電話連絡などで、新たな情報収集に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は定期的なバイタル測定だけでなく、日々の本人の様子を見て健康状態を見ている。申し送りでも、職員全員日々の様子の変化を把握するようにしている。健康状態だけでなく、日々の過ごし方を把握し、職員が利用者の間に入ったリ、利用者と話をする事で、心理状態も把握することにも努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者と家族の意向を尊重しつつ、日々の生活の様子を見て、職員間で申し送り、ミーティング等話し合いをし、その利用者にあったプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、新たな取り組みとして、ケアカンファレンスに、ご家族も参加いただき、利用者ご本人の暮らしとケアについて話し合う場を作っておられる。ケアカンファレンス時には、飲み物のメニュー表から、好きな飲み物を選んでいただき、ゆっくり話し合いができるような雰囲気作りにも努めておられ、又、カンファレンスを行うことについての事業所の思いや意義を伝え、話し合っておられる。利用者やご家族の新たな情報が得られたり、暮らしへの意向の把握にもつながっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の状態を記録に残し、本人の訴えや様子を申し送り、話合ったり、日々のケアについて考え、行っていくよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の希望で、外出・外泊されている。その際には、日々の様子から、注意することを家族に伝え、外出・外泊時の様子を家族から聞いたりしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的な民生委員の訪問、ボランティア(砂絵、習字等)の受入れ、地域の老人会の参加、中学生職場体験、ヘルパー実習受入れ、消防訓練による地域消防署との連携といった、積極的な地域との関わりを持てるようにしている。また、移動販売のパン屋さんがきて、自分でパンを購入したり、買い物レクで地元で買い物に出かけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 最低でもひと月に一回は、職員が同行し、協力病院へ定期受診している。医師・看護師からの意見を家族に伝え、日々のケアでも気をつけている。また、利用者の希望により、他の病院の受診も行えるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の中には服用する薬を多く持って入居される方もおられるが、入居後様子を観察して、かかりつけ医と相談しながら調節し、ケア等でもカバーして落ち着いた生活ができるよう支援に努めておられる。医療機関に入院した場合でも、医師からの指導のもと、早期退院に向け取り組み、医療機関と連携しながら事業所での生活の中で療養できるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の状態観察や、バイタルチェックを行い、状態に変化がある場合には、早急に報告し、協力病院を受診している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 協力病院と連携を取ることはもちろん、他の病院に入院した際にも連絡を取り合う事で、利用者が安心して治療に専念できるよう、努めている。連絡を取り、情報交換することで、退院した後も利用者が安心して生活できるよう努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医との連絡を取り合い、気軽に相談できる関係作りをしている。ターミナル期などが考えられる場合には、家族にも意向確認し、職員間でも話し合い、統一したケアを行うよう努めている。	
			(外部評価) 事業所では、「ご家族がここで見てもらってよかった」と思っただけのような支援を目指して、重度化、終末期の支援に取り組んでおられる。協力医療機関の医師は、在宅での生活を大切に考え指導してくださっている。施設長は、看護師資格を有し、又、救急救命士の資格も持っておられ、いざという時には、職員とともに対応して、利用者がぎりぎりまで事業所で生活できるよう支援されている。ご家族からは「いつでもどんなことがあってもいいよ」と言っていたらいい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルを作成しており、どう対応すれば良いかわかるようにしている。また、すぐに医療機関と連携がとれる体制をとっている。職員間でも日々確認し合い、リスク軽減に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練や火災訓練を行い、職員は災害時にどう対応すべきか、学んでいる。定期的な訓練の時だけでなく、地域消防署と連携を取り、協力体制にある。 (外部評価) 春と秋に地域の消防団やご家族も参加して避難訓練を行っておられる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の会話や、申し送りの時など、利用者の尊厳、プライバシーを損ねることがないように、言葉使いにも気をつけている。また、個人情報の取り扱いにも気を付け、記録するときにも注意している。 (外部評価) 事業所は、利用者へ「情けない思いをさせない」支援を目指しておられ、できていたことができなくて戸惑うような場面があれば、職員は共感し寄り添うことに努めておられる。	忙しいような時間帯等によっては、「ちょっと待って」「ちょっと座っていて」というような職員の言葉かけも見られる。この機会を活かして、利用者への言葉かけや対応について点検し、職員自身が気付いたことを持ち寄り、ケアの質向上につなげていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ケアする際には、利用者と一緒に話しながら、想いを引き出すよう、努めている。また、言葉に表現できない利用者には、仕草や表情、様子を見て理解するよう、努めている。利用者ができることは手伝って頂き、職員にもご指導頂きながら、協力して生活して頂けるようにしている。利用者と一緒に話し合い、何がしたい、何が出来るかを日々考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、入浴時間等、可能な限り本人の希望を聞き、入浴日も、その日の体調に合わせ、本人の要望をその都度聞いて支援している。食事の主食は、本人の希望で、軟飯やおかゆにしたりしている。また、夜間も決まった消灯時間に休むことができない利用者は、他の利用者に考慮した上で、居室やフロアで過ごして頂いている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴や起床時、服はできるだけ本人に選んで頂けるように配慮している。必要に応じ、更衣・着脱・整髪・モーニングケアの援助をしている。また、施設での散髪を希望する際には、理容・美容師を選択できるようにしている。行きつけの理美容室に行けるよう、支援もしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の利用者にあった食事形態を工夫し、職員とできる範囲で、準備や後片付けを手伝っていただいている。また、職員と一緒に食事を取ることで、日々の食事のことを、利用者話し合い、世間話・会話・意見を引き出せている。日々、食事については検討しているが、家族会でも施設の食事をしていただきながら、意見を頂いている。 (外部評価) 家族会を活かして、普段の食事をご家族と一緒に食べるような機会を作っておられ、「品数があるね」「刻んでくれているのですね」等、食事への感想が聞かれたようだ。おかずは、法人厨房で作ったものが届き、ご飯や汁物は、各ユニットで手作りされている。朝は、お味噌汁のにおいやネギを切る音等で目覚める方もおられる。昼食は早出の職員が利用者と一緒に食事をされ、又、夕食は、遅出と夜勤者が利用者と同じものを一緒に食べながら支援されている。目が見えにくく、耳が聞こえにくい利用者には、職員は、聞こえやすい方の耳側に座り、食事の内容を伝えながら食事介助をされていた。ご家族が食事時間に来られた際には、利用者ご本人の介助をお願いすることもあり、ご本人の状態をより詳しく知っていただけるような機会にもなっている。事業所では、今後「おやつレク」の回数を増やして、利用者の楽しみや出番を作ることを計画されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事毎に摂取量、水分量をその都度記入し、詳細もカルテに記入している。また、利用者個々に応じ、摂取量が少ない時は、好きな物を食べて頂いたり、飲み物の種類を変えたり、水分の多い果物を取って頂いている。月に一度体重測定を行い、増減や、日々の様子も注意している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個人で歯ブラシ、はみがき粉を用意し、声掛けを行って、口腔ケアを行っている。必要に応じ、見守りや介助を行っている。また、自分で行えなかったり、うがいのできない利用者は、職員がガーゼで拭くなどし、口腔状態の観察を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使い、利用者個々の排泄パターンを掴み、できるだけトイレでの排泄を心がけている。訴えのできない方にも、行動や様子を見て、定期的に声掛けし、誘導を行っている。チェック表の活用により、スタッフ全員が把握し、注意できるようにしている。トイレも大きな張り紙で、利用者にわかりやすいよう、表示している。	
			(外部評価) 利用者の排泄をチェックして、個々のパターンの把握に努め、声かけや誘導してトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事以外にも水分補給をこまめに行っている。レクや散歩などで運動を行うことにより、便秘予防に努めている。食事やおやつの内容にも工夫しており、毎食毎、汁物をつけることによって、水分を多く摂っていただくよう、努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の日々の状態や、本人の希望を確認し、入浴できるようにしている。また、入浴時には、入浴剤を入れて気分転換を図ったり、本人の好きな水温にし、会話をする等、関わりを大切にしている。	
			(外部評価) 2日に1回、入浴できるよう支援されている。浴槽の高さに合わせた縁台を浴槽の淵に置いて、ご自分の力を使って浴槽で温まれるよう支援されている。入浴剤を入れて温泉気分を楽しまれることもあり、利用者はお湯の色がきれいなことに喜ばれ、長湯される方もおられるようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、散歩や、レクリエーション等で活動量を増やし、できるだけ夜間眠れるよう、努めている。夜間眠れない利用者には、話をしたり、フロアでテレビを見て頂いたり、飲み物を取って頂く等して、気持ちを落ち着かせて、眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療情報をカルテに挿み、スタッフがいつでも調べることができるようにしている。必要に応じて、看護師に聞いたり、自分で調べるなど、内服薬について学び、職員同士情報交換している。症状変化があれば、協力病院に連絡し、指示をもらい、薬の変更があれば、申し送りなどで把握している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者のできる範囲で、食器・お盆拭き・洗濯物干し・洗濯物畳みなど、できることを手伝って頂き、役割を持って頂けるように関わっている。札所清掃や、昔ながらの行事(もちつきなど)にも、利用者から教わりながら、手伝って頂いている。新聞を読むのが日課の人には、個別で購入して頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の状態、希望に応じて体調を見ながら、散歩・外出を行っている。札所掃除や外出レク等で、地域の方と交流を深め、外食レクなど、外に出る行事の際には、家族にも参加頂いている。	
			(外部評価) 近くの「よしうみいきいき館」の、しあわせの鐘を鳴らしに行かれたり、アイスクリームを食べに行くこともよくある。この一年間、「買い物レク」「ドライブレク」に力を入れて取り組まれた。外食する際には、職員が下見して、メニューを事前に決めて、当日は、利用者が待つことなく食事ができるように配慮された。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の状態、希望に応じ、本人で現金を持っていることもあるが、大部分の方は事務所で小遣い程度預かり、散歩、買い物レク等で必要に応じ、本人がお金を持ち、支払いできるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は希望があれば、できるようにしている。定期的にレクで作った絵はがきで手紙を書いたり、暑中見舞い、年賀状なども出している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>換気システムを導入しているが、窓を開けて定期的に、換気も行っている。異食などに注意しながらも、季節の花や物を飾ったり、イラストカレンダーを貼るなどして、季節感を味わったり、落ち着いて頂く雰囲気作りを心がけている。テレビの音量や、照明の明るさにも気をつけるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>敷地内の菜園の手入れや収穫等に出られたり、屋上で外気にふれるような機会を作っておられる。館内は、きれいに掃除をされており、床暖房が設置されている。海が見えるスペース「サンルーム」には、ベッドを置いておられ、日中、利用者が横になって休んだり、夜間自室で不安な方が寝る等に使用されている。又、「利用者に季節感を感じてもらえるよう」窓には、色紙で折った水仙の花等を飾っておられた。以前は、観葉植物等のみどりを共用空間内に配しておられたが、利用者が間違えて食べてしまうようなこともあって現在は置いておられない。ユニットによっては、洗面所に、フリージアの花が飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアのテーブル、椅子だけでなく、窓側にソファを設け、外を眺めたり、少人数で会話できるよう配慮している。テーブルも二つに分けていたり、レクをするときには机を付けて、皆で一緒に楽しめるように、その都度配置を考えている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の好きな物や、入所前使用していた物を持ってきて頂いたり、レクで作った作品を飾るなど、落ち着いて生活できるようにしている。また、ベッドだけでなく、希望があれば、畳みに布団を敷いたり、本人が安心して快適に生活できるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、それぞれ果物の名前が付けられていて、りんごやいちごのイラストも付け、目印にされている。居室から出たところにトイレがある造りになっており、夜間等でも使用しやすくなっている。布団は事業所で用意して毎週シーツ交換をされているが、ご自宅から布団を持ち込むことも可能となっており、入居時にご家族に伝えておられる。利用者の中には毛布を持って来られている方もみられた。窓から海や山が眺められる居室もある。居室で読書をされる方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや浴室といった共用部分は、わかりやすいよう、大きな文字で飾り、利用者の目に見えやすい高さに表示している。また、床・居室・トイレには段差のない作りになっている。通り道には、物等置かないように配慮している。</p>	